

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 23 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H00682

研究課題名(和文) 初級学習者を対象としたコンテンツ駆動型中国語学習基盤の構築

研究課題名(英文) Development of a content-driven Chinese learning platform for beginners

研究代表者

田邊 鉄 (TANABE, Tetsu)

北海道大学・情報基盤センター・准教授

研究者番号：30301922

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：初級段階の外国語授業では、コンテンツへの興味で動機付けを維持するような手法は取りにくい。そこでコンテンツそのものではなく、コンテンツを学ぶために必要なスタディスキルを習得するための外国語授業の効果を検証した。スキルベースの授業に合わせた教科書、オンライン教材、単語集、レファレンスマニュアル等を開発し、それらを用いた授業を実施した。翻訳などのネットサービスを用いることで、単調な外国語訓練のストレスを減じ、また、興味ある分野を学ぶためのコンピュータ・リテラシーを授業内容とすることで、動機付けの維持向上効果が見られ、主として情意面の効果を確かめることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中国は経済的・文化的・政治的に交流の盛んな地域であり、大学での中国語履修者も多い。だが近年、中国の国際的な評価の低下や、政治的な混乱などにより、長期・短期の留学希望者や、休暇中に旅行に出かける者は大きく減り、新型コロナがそれに拍車をかけている。中国語自体の需要や人気はなお衰えていないが、現地に行けないことによって、動機付けが大きく低下している。本研究は、個々の学習者の興味に対応した教材と授業を用意することにより、中国に行けなくても学習の動機付けを維持向上できる方法を提案し、社会の中国語人材を増やすために貢献するものである。

研究成果の概要(英文)：In foreign language classes at the beginner level, it is difficult to take a method that maintains motivation through interest in the content. Therefore, we examined the effectiveness of foreign language classes for learning the study skills necessary for learning content, rather than the content itself. Textbooks, online materials, vocabulary books, reference manuals, and other materials tailored to skill-based classes were developed and classes were conducted using these materials. The use of online services such as translation reduced the stress of monotonous foreign language training, and the use of computer literacy to learn about areas of interest in the course content helped to maintain and improve motivation, mainly in the affective aspect.

研究分野：教育工学

キーワード：データ駆動学習 初修外国語 スタディ・スキル データベース 高等教育 CLIL アクセシビリティ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

大学のいわゆる初習外国語(第二外国語)教育は、時間数や教員数といったリソースの不足、学生の動機付けが必ずしも高くないこと、その割に学生・社会・学校からの要求は高いこと、授業への参加度合いによって半年足らずで学力格差が広がってしまうこと、などの問題を抱えながら、コミュニカティブな「使える外国語」を目指し、実用的なコミュニケーション訓練を中心とした授業への転換を進めてきた。この場合「使える」とは、旅行や生活のために必要な最低限の「サバイバル」用の言語が駆使できることとほぼ同義であり、必ずしも研究や仕事のための実用的なスキルということではない。また、いわゆる「教養」科目として学習者の知的好奇心を喚起するものにもなっていないのが実情である。

学習者の動機づけを高めることと外国語によるコミュニケーション能力を高める訓練を両立させる方法としては、「外国語『を』学ぶ」から「外国語『で』学ぶ」へとシフトする、CLIL(内容言語統合学習)導入が効果的であることがわかっている。英語による講義を設定する大学は増えているが、特に初習外国語では、6年間の積み上げがある英語と違い、大学入学後のわずかな時間学んだだけで「コンテンツと1:1の外国語学習」を組み立てることは難しい。また、学習者の背景や志望はますます多様化しており、どの科目の学習を、どの時点でCLILとして実施するのか簡単には決めることができない。

他方、大学の学習・研究内容の多様化・高度化により、学力や、学習に必要なリテラシーの格差が問題となった。各大学では、初年次教育・リメディアル教育を充実させることにより、これに対応し、その中で外国語教育も「スタディ・スキルのひとつ」と位置づけられ、口頭コミュニケーション偏重をあらため、パソコンやインターネットの活用を含めたインプット・アウトプット技能の修得が重視されるようになりつつある。

おりしも、中国では空前の「工具書ブーム」が起きており、各種レファレンスをデジタル化して整備し、学習者に自律的に利用させるような学習を推進する機運が高まっている。

### 2. 研究の目的

本研究は、(1)CLILの「科目(コンテンツ)学習」を、「スタディ・スキルの学習」に置き換えた、CDLL(コンテンツ駆動言語学習)としても、学習者の動機付けを維持・向上させることができること、(2)学習者ごとの個別の希望は、インターネット経由でアクセスできるデータベースを用いた自律的な学習でも、一定程度満足することができる、という2点の検証を目的とする。CLILの学習者観は従来、「科目学習のレベルに相当する、外国語能力を持っている」中級以上の学習者、であるが、本研究はそれを押し広げ、初級学習者でも充実したコンテンツベースの学習が可能であることを示す。また、初修外国語でのコンテンツベース学習を充実させることは、トライリンガル・トライカルチャーを志向することである。物事を多くの視座から見ることによって、その実相により迫ることができる。また、様々な考え方や立場に対する寛容という、現代社会に最も必要とされている資質を伸ばすことができる。

### 3. 研究の方法

本研究は「学習コンテンツの開発」「授業の試行」という実践と、「効果の検証」「モデル化」という検討部分からなる。対象言語は中国語であり、語彙に大きく依存する言語である中国語の特徴を活かした実践を一部含んでいるが、全体的には、他の言語の授業についても有益なモデルを示すことができると考える。

実践においては、コンテンツを「学習内容」ではなく「授業に入り込むきっかけ」と位置づけ、授業の目標を「多くの科目で汎用的に使えるスタディ・スキルの獲得に置くことで、外国語学習の初級段階の、「外国語に対する興味を増すためにコンテンツを学ぶのに、コンテンツを学ぶためにはその外国語について最低限の習熟が必要」になる、というジレンマを解消する。

学習コンテンツの開発のうち、学習者の動機付けを強めるための文化・社会・風俗等を広くあつめたデータベースの構築は主として、多元文化教育研究班が受け持つ。『Chinese Culture Review』(現在は休刊)などの資料をデジタル化したり、検定試験向けの基本単語に、新語・流行語・ネット用語などを加えたオンライン単語集を作成し、学ぶ材料となる事例はできる限り自分で選ばせることのできるような環境を用意する。国や地域、グループなどで文化が異なることを理解し、他の文化への理解と尊重の態度を涵養するような仕組みを作ることとした。これは、初修外国語授業の目的にかなうものである。

言語学習部分については、言語習得研究班が担当する。各大学で用いられている「文法シラバス」による総合学習を踏襲しつつ、それを「Can Doリスト」などを用いて常に現実の具体的なコミュニケーション活動と結びつけるようにする。

スタディスキルについては、スタディスキル研究班が担当し、情報化・多言語化に対応したスタディスキル教育について検討する。特に、ICTの効果的な活用、AI(チャットボット含む)の利用、辞書学習などに着目した。

開発した教材・授業等を、実際に学生に対して実施し、「スタディスキルの向上」と「外国語学習や外国文化・社会の学習に対する動機付けの向上」という二つの観点から効果を検証する。

授業内容と成果、教材、教材の利用マニュアル等は、それぞれ Web サイトや学会発表などで公開する。

#### 4. 研究成果

言語習得研究については、自律的な中国語授業とその評価について、具体的なイメージを提示できた。またそれに基づいて教科書を刊行し、現在も使用しながら検討を重ねている。また新型コロナの影響で、授業イメージについて、教員と学習者の間に思ったより大きなギャップがあることに気づき、「言語教育用教材のアクセシビリティ」や「少数者差別につながらない言語教育」といった新たな課題を追加し、CDLL 学習に新たな意義を見出すことになった。これは教材・授業評価のための新しい指標となり得ると考える。また、オンライン授業で問題になるテストについても、「記憶力以外を測定するテスト」の開発などにより、大学の外国語授業に、新たな方法論を追加した。

新型コロナの影響により、ライブやオンデマンドによるオンライン授業が増えていく中で、学習者や教員の情報環境・情報系スキルの格差が浮き彫りになった。スタディ・スキル研究では、自動翻訳や AI、音声合成・音声解析、高度な自然言語処理などが当たり前にある時代の外国語学習にはどのような意義を見いだせるか、という観点から、ハード・ソフトやオンラインリソースを使いこなす技能だけでなく、自分で必要なサービスを構築したり、ありもののサービスを自分専用にカスタマイズしたりするためのプログラミング教育とコラボするなど、新たな時代のスタディ・スキル構築に貢献した。

多元文化教育の分野では、現地調査による実物資料の収集とその電子化ができないか、また、「中国との遠隔交流」そのものをパッケージコンテンツとして提供できないか、といった検討を行ってきた。中国現地調査は 2020 年度に予定していたが、研究期間中に実施することはかなわなかった。CLIL の先進事例や、多言語・多文化教育の実態について、特にヨーロッパにおけるアジア言語のプログラムについて、現地調査を行った。日本では近年敬遠されてきた、近代小説等の講読が、海外では非常に重視されていることに着目し、文学作品をテーマにした教科書を開発、刊行した。制作予定だった語彙データベースについては、HSK の標準語彙の入力は終わっている。また、文化・社会関連コンテンツおよそ 5000 項目も入力が終わっている。ただし、5 年前の情報が中心なので、アップデートが必要と思われる。それまでの「つなぎ」として、これまで漢字文献情報処理研究会で刊行してきたレファレンスや、レファレンス特集の雑誌をオープンアクセス化し、これを検索することで目的がおおむね達せられるように考えている。

本研究の具体的実践として 2020 年度より、北海道大学で「中国語演習 S3：インターネットで中国語」という授業を半年・週 1 回開講した。ただ、2020・21 年度は新型コロナの影響により、全てオンラインで実施することとなった。授業は、中国文化・社会に関わるミニ講義やメディア作品の紹介、新語・流行語・ネット用語を使った対話練習、自分が興味を持っているオンラインテキストを教材化するための、検索やテキストの解析と加工等の実習を行った。また最終課題として、中国語で 5 分程度のプレゼンテーションを課した。

なお、本研究は、漢字文献情報処理研究会による『情報時代における中国学研究・教育オープンプラットフォームの構築』プロジェクトの分担者が、言語教育にフォーカスし、新たな研究として実施したものである。2018 年にこのプロジェクトから刊行された雑誌『漢字文献情報処理研究』および、2021 年刊行の単行本『デジタル時代の中国学リファレンスマニュアル』には、執筆者として参加するとともに、これらを利用した具体的な教育実践の提案を行うことができた。

各々の具体的な成果は、学会・研究会・学術論文・著書・教科書・電子教材の形で公開している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 23件）

1. 著者名 山下一夫, 吉川龍生	4. 巻 18
2. 論文標題 多様な“中国語”を受容可能にする授業へードイツの大学における中国語の事例から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 慶應義塾外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 pp.19-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荻野友範, 吉川龍生, 深谷圭助	4. 巻 18
2. 論文標題 高等学校の中国語授業における辞書引き学習導入実践ー紙の辞書とオンラインツール活用の試みー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 慶應義塾外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 pp.41-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 深谷圭助, 吉川龍生, 王林鋒, 関山健治, 廣千香, 水本良恵	4. 巻 15
2. 論文標題 中学校英語科における辞書引き学習実践に関する研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 pp.51-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田邊 鉄	4. 巻 58
2. 論文標題 中国語CALL授業のこれまでとこれからーAIと”あるほかない”私たちの中国語教育	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国21	6. 最初と最後の頁 pp.85-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎直樹	4. 巻 58
2. 論文標題 監視の要らない中国語教育を目指して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国21	6. 最初と最後の頁 pp.157-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千田大介	4. 巻 21
2. 論文標題 未完の五虎將軍	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 pp.50-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上地宏一	4. 巻 4
2. 論文標題 ファイル共有サービスを利用したプログラミング教育支援システムの開発	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大東文化大学社会学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 pp.47-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千田大介	4. 巻 20
2. 論文標題 薛家将征西故事小説変遷考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 62-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山下一夫	4. 巻 20
2. 論文標題 台湾皮影戲における潮州語	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 5-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山下一夫	4. 巻 20
2. 論文標題 校正観世音修行香山記稿	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下一夫、山下誠、吉川龍生	4. 巻 17
2. 論文標題 外国語教育における三つの資質・能力とパフォーマンス評価 慶應義塾大学外国語教育研究センター研究プロジェクト「グローバル化に対応した外国語教育推進事業」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 慶應義塾外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 175-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 深谷圭助、吉川龍生、関山健治	4. 巻 14
2. 論文標題 イギリスの公立小学校における辞書引き学習の導入と教師の学び	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代教育学部紀要 (中部大学)	6. 最初と最後の頁 27-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田邊鉄・千田大介・山下一夫・吉川龍生・氷野善寛	4. 巻 19
2. 論文標題 新型コロナウイルスの流行と中国学の教育・研究座談会 中国語教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 漢字文献情報処理研究	6. 最初と最後の頁 65-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田邊鉄	4. 巻 19
2. 論文標題 オンライン授業の成績評価方法 語学授業でオンライン試験	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 漢字文献情報処理研究	6. 最初と最後の頁 95-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川龍生	4. 巻 19
2. 論文標題 初習中国語のオンライン授業における成績評価について—大学1年生向け授業のパフォーマンス評価—	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 漢字文献情報処理研究	6. 最初と最後の頁 101-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎直樹	4. 巻 12
2. 論文標題 初級中国語のオンラインクラスにおける活動と評価	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 関西大学高等教育研究	6. 最初と最後の頁 157-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上地宏一	4. 巻 1
2. 論文標題 実習補助者のいないクラス形態向けプログラミング教育支援システムの構想	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大東文化大学社会学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 73-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 千田大介	4. 巻 18
2. 論文標題 粉戯と陣前招親 西唐故事の形成と展開をめぐる仮説	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 5-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 千田大介	4. 巻 18
2. 論文標題 中国古典戯曲研究のための曲牌・音韻データベースの開発	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 64-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 深谷圭助, 吉川龍生	4. 巻 12
2. 論文標題 語彙習得学習における語種間共通方略モデルの開発とその実践ー辞書引き学習の動機づけと方略の有効性をめぐってー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 47-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千田大介	4. 巻 第17輯
2. 論文標題 北京皮影戲西唐故事考 「大罵城」と『三皇宝剣』伝奇を軸に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 91-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 氷上正・二階堂善弘・平林宣和・千田大介・山下一夫・佐藤仁史・戸部健	4. 巻 第17輯
2. 論文標題 「近現代中華圏の伝統芸能と地域社会」2018年度活動概要	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 163-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 千田大介	4. 巻 第17輯
2. 論文標題 嘉慶二十四年慶郡王府戲班花名单考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 一-七
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎直樹	4. 巻 第18号
2. 論文標題 「権威」の要らない言語学習の可能性 - ICTと学習者オートノミー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 漢字文献情報処理研究	6. 最初と最後の頁 4-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田邊鉄	4. 巻 第18号
2. 論文標題 KH Coderで中国語分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 漢字文献情報処理研究	6. 最初と最後の頁 46-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 千田大介	4. 巻 第18号
2. 論文標題 中国語形態素解析エンジン概観	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 漢字文献情報処理研究	6. 最初と最後の頁 63-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 千田大介	4. 巻 第18号
2. 論文標題 Windowsで結巴、THLACを使う	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 漢字文献情報処理研究	6. 最初と最後の頁 66-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小島浩之・佐藤仁史・千田大介・二階堂善弘・師茂樹	4. 巻 第18号
2. 論文標題 デジタル時代の中国学リファレンス	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 漢字文献情報処理研究	6. 最初と最後の頁 77-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤仁史・千田大介・師茂樹	4. 巻 第18号
2. 論文標題 2018年夏期中国視察報告	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 漢字文献情報処理研究	6. 最初と最後の頁 148-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田邊鉄・千田大介	4. 巻 第18号
2. 論文標題 自炊・モバイル時代の中国語OCR徹底比較	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 漢字文献情報処理研究	6. 最初と最後の頁 169-194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田邊鉄	4. 巻 第18号
2. 論文標題 Android スマホ用中国語辞書	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 漢字文献情報処理研究	6. 最初と最後の頁 202-205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計42件(うち招待講演 3件/うち国際学会 7件)

1. 発表者名 吉川龍生
2. 発表標題 中国語辞書引き学習の導入実践報告
3. 学会等名 2022年高等学校中国語教育全国大会 (第39回高等学校中国語教育研究会全国大会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田邊 鉄
2. 発表標題 外国語授業におけるコンテンツ駆動学習の導入
3. 学会等名 2022PCカンファレンス
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田邊 鉄
2. 発表標題 CALLからmeta-CALLへ
3. 学会等名 日本教育工学会2022年秋季全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田邊 鉄
2. 発表標題 初習外国語を対象とした留学代替活動
3. 学会等名 日本教育工学会研究会「高等教育における学習支援」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉川龍生
2. 発表標題 アフターコロナの外国語教育
3. 学会等名 科研費公開講演会・外国語教育を変えるために
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山下一夫
2. 発表標題 変わる外国語教育・変える外国語教育
3. 学会等名 科研費公開講演会・外国語教育を変えるために
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田邊 鉄
2. 発表標題 大学の人文系科目における情報モラル教育の導入
3. 学会等名 北海道大学情報基盤センター萌芽型共同研究公開講座
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山崎直樹
2. 発表標題 言語景観から情報保障と言語権を考える：学生たちの活動の報告
3. 学会等名 電子情報通信学会「思考と言語」研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田邊 鉄
2. 発表標題 中国語オンライン授業のT Aについて
3. 学会等名 e-Learning教育学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山崎直樹
2. 発表標題 AIは中国語教育の何を助けてくれるのか
3. 学会等名 オンラインセミナー「ChatGPTと外国語教育」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田邊 鉄
2. 発表標題 中国語で / をプログラミングを / で学ぶ授業
3. 学会等名 PCカンファレンス2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田邊 鉄
2. 発表標題 合い言葉は『結果オーライ』-CALLがCALLでなくなった日
3. 学会等名 漢字文献情報処理研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 千田大介
2. 発表標題 京腔通俗伝奇と薛家将故事
3. 学会等名 公開講演会「中国古典戯曲の本色と通俗」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山下一夫
2. 発表標題 潮州系の演劇と台湾の影絵人形劇
3. 学会等名 公開講演会「中国古典戯曲の本色と通俗」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山下一夫
2. 発表標題 文部科学省委託「グローバル化に対応する外国語教育の推進」事業 - 英語以外の外国語教育に取り組む高等学校の実践を中心に - 慶應義塾大学の取り組み
3. 学会等名 JACTFL/SOLIFIC主催第10回記念シンポジウム「外国語教育の未来（あす）を拓く～持続可能な未来を創るための外国語教育～」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Linfeng wang , Yuko Takeishi , Keisuke Fukaya , Tatsuo Yoshikawa, Kenji Sekiyama
2. 発表標題 A Collaborative Case Study of Effects of Common Language Learning Strategy Model in English Classes at a Junior High School in Japan
3. 学会等名 WALS 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Keisuke Fukaya , Tatsuo Yoshikawa, Lingfeng Wang
2. 発表標題 Japanese "Jishobiki" from British teacher's interpretation
3. 学会等名 WALS 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田邊鉄
2. 発表標題 翻訳機器に人格を仮想する外国語学習の可能性
3. 学会等名 2020PCカンファレンス
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田邊 鉄
2. 発表標題 中国語授業のオンライン展開 北海道大学の場合
3. 学会等名 漢字文献情報処理研究会第二十三回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山下一夫, 境一三, 吉川龍生, 縣由衣子, 山下誠
2. 発表標題 外国語教育における3つの資質・能力とパフォーマンス評価ー高大協働による取り組みー
3. 学会等名 第9回JACTFLシンポジウム 外国語教育の未来を拓く：世界とつながる複数外国語教育の展望
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田邊 鉄
2. 発表標題 AI通訳のいる時代の言語教育
3. 学会等名 漢字文献情報処理研究会 サマー・カンファレンス：言語教育はどこへ向かうのか
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田邊 鉄
2. 発表標題 外国語とプログラミングを学ぶCLIL
3. 学会等名 2019PCカンファレンス
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田邊 鉄
2. 発表標題 コンピューティング・ポライトネス試論－機械と学ぶ中国語
3. 学会等名 e-Learning教育学会第18回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 千田大介
2. 発表標題 北京・冀中皮影戲のレパトリーをめぐって
3. 学会等名 中国都市芸能研究会2019年度春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 千田大介
2. 発表標題 HSK出題単語の分析 オンライン中国単語集の構築に向けて
3. 学会等名 漢字文献情報処理研究会 サマー・カンファレンス：言語教育はどこへ向かうのか
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 千田大介
2. 発表標題 中国古典戯曲の音韻分析のために
3. 学会等名 漢字文献情報処理研究会 第22回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 深谷圭助、吉川龍生
2. 発表標題 A study on active learning in language education
3. 学会等名 WALS2019 (World Association of Lesson Studies) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下一夫、吉川龍生
2. 発表標題 ドイツにおける中国語教育
3. 学会等名 漢字文献情報処理研究会 サマー・カンファレンス：言語教育はどこへ向かうのか
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田邊鉄
2. 発表標題 スキルベースの外国語学習におけるデータベースの活用
3. 学会等名 日本教育工学会 第34回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田邊鉄
2. 発表標題 教科学習とプログラミング教育の統合アプローチ
3. 学会等名 北海道大学情報基盤センター萌芽型共同研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田邊鉄
2. 発表標題 コンテンツ駆動型中国語学習の可能性：大学の必修授業を対象に
3. 学会等名 漢字文献情報処理研究会 第21回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田邊鉄
2. 発表標題 CLILの新展開：プログラミングでノを学ぶ中国語授業
3. 学会等名 e-learning教育学会 第17回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎 直樹
2. 発表標題 『権威を持った教師』を必要としない外国語学習
3. 学会等名 漢字文献情報処理研究会 第21回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 千田大介
2. 発表標題 北京・冀中皮影戲のレパートリーをめぐって
3. 学会等名 中国都市芸能研究会2018年度春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 千田大介
2. 発表標題 論北京、河北皮影戲之演變
3. 学会等名 偶戲無國界 台日港偶戲交流座談會（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 千田大介
2. 発表標題 皮影戲の大西唐故事をめぐって 「大黒城」・北京皮影戲・台湾皮影戲
3. 学会等名 中華圏の影絵人形劇（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 千田大介
2. 発表標題 中華圏の影絵人形のデザインと系譜
3. 学会等名 台湾ローカル文化と中華文化 映画・影絵人形劇・布ボテヒ袋戲、そして『Thunderbolt Fantasy』
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下一夫・吉川龍生
2. 発表標題 イギリスから見た日本の中国語教育 学習指導要領の問題を中心に
3. 学会等名 日本中国語教育学会第16回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川龍生・山下一夫
2. 発表標題 How to improve Chinese language education in Japan A comparison of Chinese teaching in the UK and Japan
3. 学会等名 The British Chinese Language Teaching Society (BCLTS) Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川龍生
2. 発表標題 中国語教育の国際比較と日本における主体的学習の可能性 SFLL、CEFR、辞書引き学習の実践から
3. 学会等名 慶應義塾中国文学会第3回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川龍生
2. 発表標題 台湾「健康写実映画」と1930年代上海映画
3. 学会等名 台湾ローカル文化と中華文化 映画・影絵人形劇・布ボテヒ袋戯、そして『Thunderbolt Fantasy』
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川龍生
2. 発表標題 A STUDY ON ACTIVE LEARNING IN LANGUAGE EDUCATION
3. 学会等名 17th Annual Hawaii International Conference on Education (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 境 一三、山下 一夫、吉川 龍生、縣 由衣子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 186
3. 書名 外国語教育を変えるために	

1. 著者名 千田大介、山下一夫、氷上正、川浩二	4. 発行年 2021年
2. 出版社 台湾：博揚文化	5. 総ページ数 1450
3. 書名 元明清戯曲資料彙編	

1. 著者名 浅野雅樹、須山哲治、松倉梨恵、山下一夫、容文育、吉永壮介、李晶	4. 発行年 2022年
2. 出版社 白帝社	5. 総ページ数 88
3. 書名 初級テキスト 中国語のススメ	

1. 著者名 北海道大学中国語教科書編纂グループ(田邊 鉄・清水賢一郎・楊彩虹)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 朝日出版社	5. 総ページ数 150
3. 書名 北大総合中国語Ⅰ・ⅠⅠ	

1. 著者名 北海道大学中国語教科書編纂グループ(田邊 鉄・清水賢一郎・楊彩虹)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝日出版社	5. 総ページ数 80
3. 書名 北大総合中国語Ⅰ	

1. 著者名 関根謙・吉川龍生・松倉梨恵・唐蔚	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東方書店	5. 総ページ数 60
3. 書名 文学の窓 中国語精読テキスト	

1. 著者名 石光生、邱一峰、山下一夫、氷上正、戸部健、千田大介、平林宣和、佐藤仁史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 好文出版	5. 総ページ数 208
3. 書名 中華圏の伝統芸能と地域社会	

1. 著者名 水上正、山下一夫、千田大介、吉川龍生	4. 発行年 2018年
2. 出版社 好文出版	5. 総ページ数 110
3. 書名 台湾ローカル文化と中華文化	

1. 著者名 水上正、山下一夫、戸部健、千田大介、平林宣和、佐藤仁史、二階堂善弘	4. 発行年 2018年
2. 出版社 台北：博揚文化事業有限公司	5. 総ページ数 282
3. 書名 地方戯曲和皮影戯 日本學者華人戯曲曲藝論文集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山崎 直樹 (YAMAZAKI Naoki)  (30230402)	関西大学・外国語学部・教授  (34416)	
研究分担者	千田 大介 (CHIDA Daisuke)  (70298107)	慶應義塾大学・経済学部(日吉)・教授  (32612)	
研究分担者	山下 一夫 (YAMASHITA Kazuo)  (20383383)	慶應義塾大学・理工学部(日吉)・教授  (32612)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉川 龍生  (YOSHIKAWA Tatsuo)  (30613369)	慶應義塾大学・経済学部（日吉）・教授    (32612)	
研究分担者	上地 宏一  (KAMICHI Koichi)  (20468721)	大東文化大学・社会学部・准教授    (32636)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関